

報道各位

## 2020年 TOKYO FM 新入社員に寄せて ～代表取締役社長 黒坂修 挨拶～

**株式会社エフエム東京は、本日正午より 2020 年度入社式を実施し、代表取締役社長・黒坂修が新入社員に向けて、以下の挨拶を述べました。**

※2020 年度新入社員は 女性社員 3 名 男性社員 1 名 計 4 名

TOKYO FM への入社おめでとうございます。  
我々は皆さんを心から歓迎し、大きな期待を寄せています。

TOKYO FM は去年の 6 月に役員体制が一新されました。報道などでご存じかと思います。我々は今、企業価値の再構築、ビジネス構造の転換へと向かって再出発したところです。

詳しい話は、ここではしませんが、我々は、放送事業者からそれを含めたオーディオコンテンツ事業者への進化を図っています。我々は長い間、放送免許事業者として独占的なビジネスを展開することが可能でした。しかし、通信の止まることのない進化の中にあって、放送波・電波というものの伝送路としての価値は相対的に低減し、極端に言えば、通信に課せられた著作権の壁がなくなれば、誰でも簡単にラジオ局やテレビ局を始めることができる環境となったのです。音声の世界では、Spotify や YouTube や Amazon Music が音楽聴取のメイン舞台となりつつあることはご存じのとおりです。我々の事業は、インターネットを中心とした情報革命の荒波の中にあるわけです。

当社の放送売り上げは 30 年前、1990 年度が 206 億円、2018 年度は 103 億円、半減しています。ラジオ全体では、半減を超え、43%にまで落ち込み、新聞や雑誌も同じです。テレビも昨年から大きな落ち込みが目立ってきています。

では我々はそんな環境の中、どこへ向かっていくべきなのか、それは、まず第一にコンテンツビジネスを極めて行くことです。我々は、TOKYO FM (エフエム東京) 50 年の歴史の中で、様々な音による表現について試行錯誤をしてきました。『JET STREAM』やかつての『SATURDAY WAITING BAR AVANTI』、『あ、安部礼司』のような想像力を喚起するコンテンツを数多く生み出し、また、新旧の良い音楽をリコメンドする能力についても努力を重ねてきました。しかし、そのクリエイティブへの努力が近年やや曖昧になってしまったきらいがあり、今再出発をしているところです。この 4 月からは、『JET STREAM』に福山雅治さんが登場し、秋元康さんが毎日大物出演者を指名する深夜の生ガチトーク番組も始まり、『TOKYO SLOW NEWS』というラジオならではの報道番組もスタートしました。

つまり、伝送路がどうなろうと、一番大切なのは中身、コンテンツ、クリエイティブなのです。クリエイティブをビジネスにしていくということなのです。

もちろん、通信の進化は止まることはなく、インターネット広告市場は 2023 年には 3 兆円を超えてテレビの倍近くになると予測されています。我々は、FM 放送事業者でありながらも一つ、インターネットの世界でも興味深く楽しい音声コンテンツのプラットフォームを作り上げ、コンテンツクリエイティブの力で生活者の生活スタイルの中に位置づけら

**2020年4月1日**

れる存在となる必要があります。以上が、当社が今向かっている重要テーマの骨子です。

それと同時に当社の位置づけとして心に刻んでほしいことは、当社は北海道から沖縄までの系列38局のキー局であるということです。当社はこのスケールメリットを編成制作や営業に生かすことができるし、何よりも世の中への大きな影響力を持たせていただいているということです。それは同時に系列局の経営を支えていくという使命と責任があるということの意味します。これは当社の大きな特徴なので心に刻みつけてください。

みなさんは、この後番組制作や営業やデジタルやそれを支える重要な技術部門や総務管理部門に配属されて仕事をしていくことになります。いずれにしてもこの会社は、コンテンツクリエイティブを極めながら、伝わる言葉と心に届く音楽で生活者の日々を豊かにするオーディオコンテンツを発信しながら、生活者の人生に寄り添い、生活者と共に心豊かな物語を紡いでいく存在となること、これが当社の企業理念です。

もう一つ、これは今日夕方の全社会議でも話しますが、

皆さんの仕事をする姿勢について話しておきたいことがあります。それは、

「会社が何をしてくれるのかではない。自分が会社に何を貢献しより良い会社作りに資するのか」ということです。これは、1961年にアメリカケネディ大統領の就任演説の一節であり、国家が何をしてくれるかではない、の国家を会社と言い換えたものです。

「会社が何をしてくれるのかではない。自分が会社に何を貢献しより良い会社作りに資するのか」

これが私が求める組織人というものです。私が今日申し上げたい一番大切な部分はこれです。皆さんはよい先輩たちに出会うでしょう。しかし、もしかすると、中には今の言葉と違う姿勢に陥っている人もいるかもしれない。どうか皆さんは自分のあるべき姿勢を貫いてほしい。皆さんが成長し大きな仕事をしてくれる日を楽しみにしていますが、この姿勢があればきっとそれはかなっていくと思います。

(於:エフエム東京)